



国際アクチュアリー会 (IAA) 死亡率ワーキンググループ

ウェブサイト: www.actuaries.org/mortality

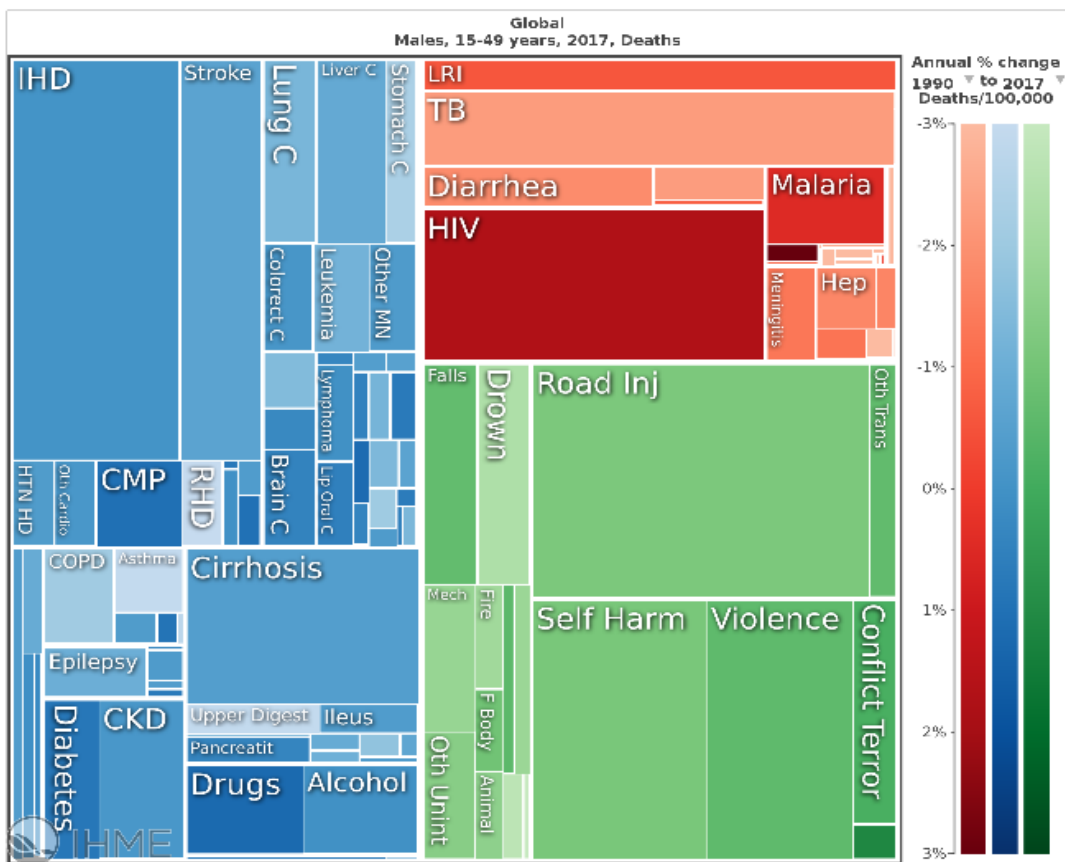
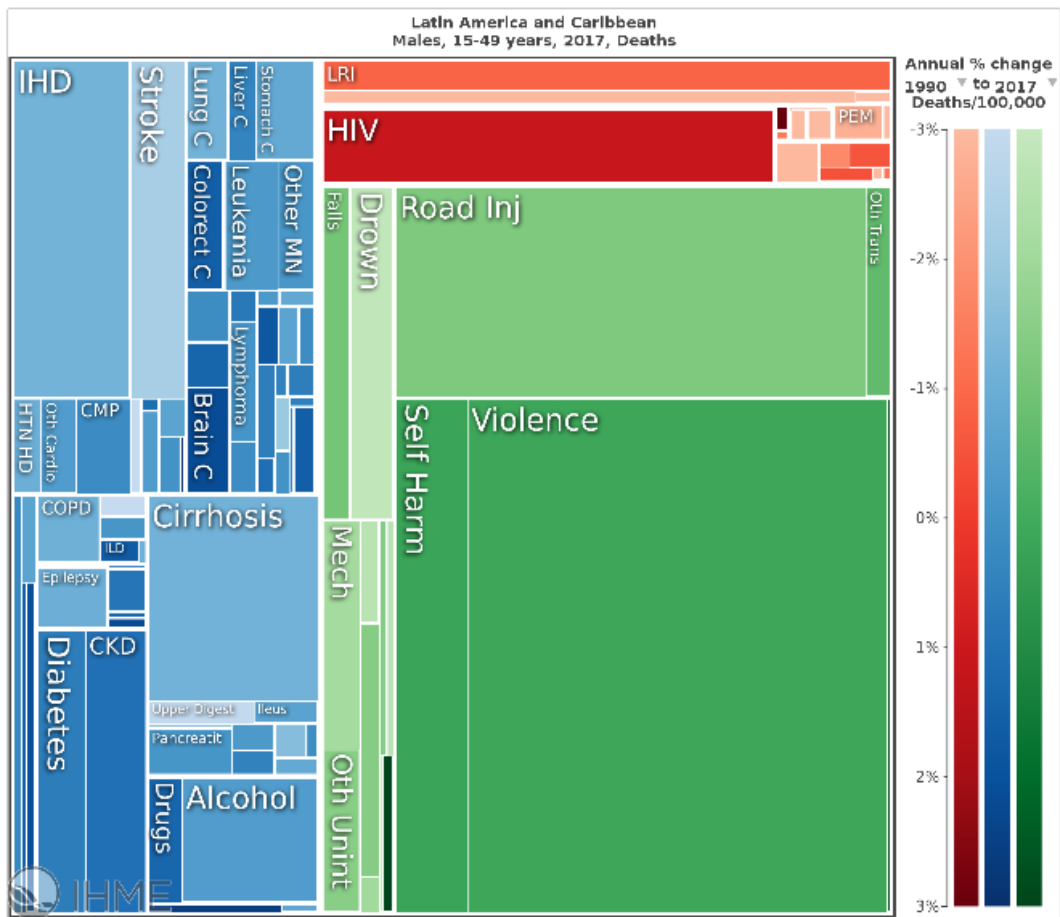
国際的な死亡率・長寿に関するアップデート #12

これは、2018年11月にメキシコシティ会議における死亡率ワーキンググループによりレビューされた死亡率・長寿の分野の研究をカバーする国際アクチュアリー会死亡率ワーキンググループ(MWG)からの国際的なアップデートです。

注: 資料またはプレゼンテーションにアクセスするには、下線付きのフレーズをクリックしてください。

1. [Local and Global Issues Related to Mortality and Population Seminar](#) Mexico City, Mexico: 死亡率ワーキンググループと人口問題ワーキンググループは2018年11月にこのセミナーを開催しました。
 - 上記のセミナータイトルをクリックしてから個々のプレゼンテーションのタイトルをクリックすることにより、プレゼンテーションにアクセスできます。セミナーレポートはここから ([English](#) and [Spanish](#))入手できます。
2. **Research from the USA:** Dale Hall が SOA から最近のアメリカの研究についての [最新情報を発表しました](#)。主な報告は以下の通り:
 - a. アメリカの国民死亡率は1999年から2012年まで年平均で1.3%低下した。しかし、それ以降、その傾向は過去5年のうち2年は死亡率が上昇するなど横ばいとなっている。
 - b. 死因分析は、オピオイド薬の過剰摂取による死亡の影響が大きくなるにつれて、事故、自殺および暴行による死亡率上昇を示している。
 - c. 給付規模別の社会保障分析: 給付額の少ない五分位点の死亡率は平均の160%を上回り、給付額の多い五分位点の死亡率は平均の60%を下回る。
 - d. 社会経済グループ固有の死亡率表の使用が増加している。
3. **Research from the UK:** Brian Ridsdale (UK)が死亡率に関する最近のイギリスの研究についての [最新情報を発表しました](#)。
 - a. 11月22日に発行された [UK Mortality and Longevity Update #14](#) に含まれる項目
 - b. ランセット(査読制医学雑誌)に発表された平均余命を予測するための新しいアプローチ。“Forecasting life expectancy, years of life lost, and all-cause and cause-specific mortality for 250 causes of death: reference and alternative scenarios for 2016-40 for 195 countries and territories, [Foreman et al, Lancet](#) October 2018”.
4. [The effect of Homicide in Latin America](#)
Ivan Botello (ゲスト・スピーカー)が、ラテンアメリカ諸国は世界の人口のわずか10%を占めているが、世界の全殺人の25%を占めているという事実を参照しながら、なぜ殺人がラテンアメリカに大きな影響を与えるのかを示しました。これとは対照的に、アジア諸国は世界の人口の65%を占めているが、全殺人のわずか5%である。

これは、ラテンアメリカ諸国の男性の15~49歳の死亡率(上の図)と世界(下の図)を比較することで説明できます。



5. [Mexican Social Security](#)

Marcela Abraham, Carlos Gonzales, および Rocio Gomez (ゲスト・スピーカー)が、障害者となり社会保障障害給付の受給対象となった個々人の経験死亡率に関する情報を発表しました。

6. [Heterogeneity in Mortality](#)

Ermanno Pitacco が、死亡率の不均一性に関する論文を発表しました。

7. Country Reports

- a. Gyula Horváth が、ハンガリーの[カントリー・レポート](#) および[第二次世界大戦後のハンガリーの平均寿命](#)の分析を発表しました。
- b. Hiroshi Yamazaki が、[日本のカントリー・レポート](#)の最新情報を発表しました。

8. Underwriting the Elderly

Dr. Keiko Imuro が発表しました。(スライドは入手不可)

9. [Life Expectancy in Russia](#) Dmitri Pomazkin が、過去半世紀におけるロシアの平均寿命のダイナミクスと 2030 年までに 80 歳以上に到達する見通しについて発表しました。

10. [Selection of Mortality Models](#)

Michael Sherris は会議に出席できなかったため、「死亡率モデルの構築、比較および選択に関するデータ分析パラダイム」に関する研究提案は別の会議に先送りされました。

11. Research in progress

死亡率ワーキンググループは以下の研究プロジェクトに取り組んでいます。

- a. [E-cigarettes](#) - このプロジェクトは完成しており、北米アクチュアリージャーナルからの出版について承認を待っています。
- b. Older Age Mortality Project - このプロジェクトは現在保留中です。
- c. Long Term Drivers of Future Mortality - 10 の要因のうち 8 つが進展しており、2019 年にドラフトペーパーが完成する予定です。
- d. [Cause of Death Project](#) - 死因 (COD) データの原因およびそれらの類似点および相違点がいくつか確認されています。プロジェクトの次の目標 (2019 年に達成予定) は次のとおりです。
 - 死因と死因データおよび研究について文献検索を行い、この情報の文書化を開始
 - 国別の死因データと時系列傾向分析を開始
 - 2019 年の死亡率ワーキンググループ会議で予備的な分析を共有
- e. Proposed project on [better mortality models](#) - このプロジェクトの目的は、保険数理上の適用のためのより良い死亡率モデルに焦点を当てながら、死亡率モデリングにおける現在および将来の開発の包括的な概要を提供することです。重要な副次的な目的は、これらの分野に関する将来の研究を活発にすることです。結果は一連の論文になります。2019 年の目標は次のとおりです。
 - 追加的な研究がより良いモデリングにつながるギャップに焦点を当てて、死亡率モデルに関する文献検索が行われます。
 - このトピックに関するドラフトペーパーが完成します

12. [Seminar](#) "Public Policy, Social Security and trends in mortality", Washington DC, 14 May 2019

死亡率ワーキンググループと人口問題ワーキンググループは、IAA ワシントン D.C. 会議の始まる前日である 2019 年 5 月 14 日にセミナーを開催する予定です。可能であれば、ご予約ください。